

# 東西条地域センターだより

## 第39号

令和元年8月25日発行

東西条地域センター 〒739-0007 東広島市西条土与丸 2-3-4 TEL・FAX 082-421-2023

### 名月をとってくれろと 泣く子かな (一茶)

旧暦の八月十五日の月である。一年中でこの月が最も澄んで美しいとされる。秋草や虫の音、夜露や秋風など、風物のたたずまいがいっそう月を明澄にする。穂芒<sup>ほすずき</sup>を挿し、月見団子や新芋などその年の初物を供えて月をまつるのは、収穫を祈る農耕儀式の遺風である。(俳句歳時記・角川学芸出版より)

残暑はまだまだ厳しいが、それでも9月半ばを過ぎると朝夕は涼しさを感じることでしょ。本当に月日の経つのは早いものですね。直に虫たちが泣き始め敬老の日、彼岸の入り、秋分の日と続き、本格的に秋になります。今は夏場の疲れが出やすい時期、健康管理に十分に留意しましょう。(記：センター長)



### 《 東広島市敬老会のご案内 》

吉士実、西条猪道地区敬老会が9月8日(日)センターで開催されます。東西条地区敬老会実行委員会の主催により、敬老者707名の皆様のご労苦に対し感謝を表し長寿をお祝いされます。楽しみな地域の方のアトラクションも予定されています。受付開始は9時30分、開会は10時です。欠席の方にもお祝いの品があります、受取りなど質問は地域の担当者へご連絡下さいませ。

### 忘れていませんか！「10月から消費税が8%から10%」実施ですよ！

財政不安を払拭するため、バブル時代も末期の1989年に税率3%でスタートした消費税。税率はその後、1997年に5%、2014年に8%へ引き上げられ、現在に至りました。本来であれば2015年10月に税率10%への引き上げが予定されていましたが、増税による消費の落ち込みや景気減速の可能性が懸念され、2017年4月に延期に。ところがその後も景気は力強さを欠き、2019年10月に再延期が決定されました。

今なお盤石な状態とはいいがたい日本経済ですが、過去2回にわたり延期を繰り返してきたこと、高齢化社会が進み社会保障費などの支出拡大は避けられない状況などから、2019年10月には予定どおり10%への消費増税が実施されます。

本体価格10万円の品物を買う場合、これまでの10万8千円から11万円になってしまうわけですから消費者にとっては頭の痛い問題ですが、実はすべての取引に一律10%の消費税が適用されるわけではありません。

消費増税による買い控え、そこからくる景気減速などを考慮して経過措置がとられるもの、税率8%のまま据え置かれるものもあります。とりわけ暮らしに直結するものに適用されるのが「軽減税率制度」です。消費税率が10%に引き上げられても、これと同時に始まるこの制度により、「飲食物品(酒類・外食・ケータリングなどを除く)」と「新聞(週2回以上発行されるもので、定期購読契約に基づくもの)」の税率は8%のままに据え置かれます。もっとも、これらは私たちが日ごろ消費するものの一部。やはり税率アップに伴う家計の負担増は避けがたく、今後はこれまで以上に節約も考え少子高齢化に備え、老後の貯えも必要があるでしょう。(インターネット・ヤフーの記事より)

# 《市民一人1学習、1スポーツ、1ボランティア 地域センターをご活用ください》

## 「令和元年度 秋 東西条地域センターの主催講座 参加者募集」

### のぞいてみよう 美術の世界

1979年に東広島市立美術館が設立され、2020年に新たに美術館が建設されます。40年の歴史を振り返るとともに今、美術の世界を身近に感じ、美術鑑賞の楽しみをあじわうために暦から読み取る日本の歴史的美術の世界をのぞいてみましょう。興味深い楽しいお話を聞くことができます。(入場無料)

日時:9月14日(土)13:30~15:30

10月12日(土)13:30~15:30

講師: かなた すずむ 金田 誓 先生(広島大学名誉教授)

内容: 暦から見た美学

### 「生活に役立つ数学」

色々な図形の見方・考え方を学び  
新しい発見に出会いましょう!

“ 図形から何が見える? ”

“ 円・三角形・四角形の性質の不思議 ”

日時:9月28日(土)13:30~15:00

12月7日(土)13:30~15:00

講師: 今岡光範先生(広島大学名誉教授)

持参物: さし(18cm位の普通の直定規)

場 所: 東西条地域センター(東広島市西条土与丸2-3-4 ☎・Fax 421-2023)  
申込の際、氏名・住所・電話番号をお伝えください。

### 《 地域センター長のほやき 》

年を重ねるごとにボヤキと不安が出てきてしまいます。将来への不安、将来ビジョンが開けない。新しい夢が持てない、など後ろ向きな考えばかりです。日本が少子高齢化の社会にあることは誰もが知っていることです。だが、東京一極集中の様に自分の住んでいる東広島市でも地域差が際立っているのが現状です。市街地に最も近い東西条ですら、私も含め農業後継者がいない、荒地が増えるかも?、という悩み。病院や買い物に行くにも公共交通が少ない。高齢者施設を考えても団塊の世代が多い、私に入れる特別養護老人ホームはあるのかしら?、でも施設ばかり増やしても働き手の就労人口が減少していれば、介護にあたってくださる介護職員はいないでしょうね。もっと少子高齢化社会について、早くから深刻に考えておくべきだったように思い、少し本で勉強をしてみました。

インターネットで検索し、「日本の総人口の推移」を「国立社会保障研究所からの資料」で見てください。介護関係の人に教えてもらったのですが、本当に驚くようなことが読み取れます。

- ① 現在の人口は約1億2,600万人、わずか40年後には9,000万人を下回って8,700万人、現在より3割ほど少ない。そして100年も経たないうちに人口は半減すると言われていました。
- ② AIやITが進み複雑な社会にあって、人口減少・少子高齢化が進めば経済活動はもとより、国民生活に思いもよらない影響・環境変化が生じるでしょう。でも地域課題を考え、解決できるのはAIではなく人間だけなのです。
- ③ 東広島市では働く場所、事業所は減って欲しくない。しかし現実には、現在の売り上げが半分の50%になるわけではなく、企業が廃業して半減になるでしょう。事業所を減らさず、働く人を維持し活力ある東広島市を維持できる施策も必要になるでしょう。

先日の8月19日(月曜日)に東広島市主催で市内47住民自治協議会の会長さんを対象に意見交換会がありました。内容は「第五次東広島市総合計画・地域別計画」でした。市長をはじめ、市役所の職員さんが地域の将来像を考えて頂いている事に安心しました。(折羽邦彦)

